

「エラスムス派遣プログラム参加報告書」

京都大学農学部農学研究科 趙玉婷

2013年12月15日～2014年3月14日の間、KUASUのエラスムスプログラムに参加して、京都でとても有意義な三ヶ月を過ごしました。わたしにとってこの三ヶ月の留学は学習の旅でもあります、発見の旅でもあります。

まず、京大留学の間他の研究者との知的な交流をして、学習や研究の面で大いに刺激や示唆を受けました。この三ヶ月の間、秋津元輝先生のご指導を受けて、農学部の原論ゼミに参加したり、研究のために調査をしたり、KUASUのセミナーで発表したりして、いろんな研究活動を体験しました。これらの研究活動を通じて、たくさんの人と出会い、たくさん刺激的考え方を聞いて、視野を大きく広げました。農学の原論ゼミに参加したのは一番楽しい体験でした。ゼミでたくさん新鮮で面白い発表を聞いて、いま日本の農村や農業をめぐってどんな問題を抱えているか、どんな研究がなされているかを少し窺いました。ゼミで一番楽しみにしていたのは発表後のディスカッションの時間でした。ゼミのディスカッションで皆さんからたくさん刺激的考えを聞かせてもらい、研究視角や研究方法についていろいろと勉強になりました。県人会を対象とする聞き取り調査はこの三ヶ月の間経験した一番貴重な体験でした。今まで調査の経験が少なかった私にとって、どうやって調査をするかさっぱりわかりませんでした。秋津先生のおかげでずっと避けたかった調査は最後にいい体験になりました。調査対象の選び方や質問項目の作成などについて先生からたくさんアドバイスを聞かせていただいただけでなく、調査対象との事前連絡、本場で調査をするときのインタビューのテクニックまで、聞き取り調査のいろはを教えてくださいました。調査の結果は研究で十分に生かせなかったとはいえ、今後の調査のための第一歩を歩きました。最後のセミナーも研究に役立つ非常にいいチャンスを与えました。セミナーに参加した方々から鋭い質問を聞かされ、大変示唆的な意見を聞かせていただきました。

発見の旅というのは、三ヶ月の京都生活は京都、日本、中国及び自分の研究について改めて考えさせました。日本を訪ねたのは今回は三回目です。日本の都市化に興味をもってきたのです。はじめて日本に来たとき、福岡県の久留米市に半年暮らしていました。二度目は東京圏の埼玉に二ヶ月滞在しました。同じ都市といっても、久留米、東京と京都はそれぞれ違う顔、違う町並みを持っていて、生活リズムや生活感覚も必ず一様ではありません。どんな枠組みで都市化を捉えるかはわたしにとって大きな課題になります。また、海外留学は距離をおいて自国を改めて認識するチャンスを与えます。街をぶらぶらするのは三ヶ月の京都生活の楽しみでした。街で見かけた人、こと、風景などは無意識に中国での生活と比較させ、どんな都市生活を追求すべきかを考えさせます。

最後にこのチャンスを与えてくれた KUASU と多大な助けを与えてくださった KUASU の落合ユニット長、平田先生、安里先生および優しくしてくれた KUASU 支援室と研究室の皆さんに心から感謝の意を表したいです。